

平成27年度 第2回通学区域審議会会議録

開催日時：平成27年10月20日（火）午後4時から

開催場所：習志野市教育委員会3階大会議室

出席者：審議会委員 村田均委員（会長）、田中真太郎委員、諏訪晴信委員、辻利信委員、
宮内宏和委員、佐賀正栄委員、友常雅子委員、小林由希子委員
市側（事務局） 植松教育長、市瀬学校教育部長、田久保学校教育部参事、
小熊学校教育部次長、小野寺教育総務課長、天田学校教育課長
三角学校教育部主幹、上原学校教育部主幹、利根川学務係長
奥秋管理主事、合田管理主事

傍聴者なし

会議の概要

【開会】

【教育長挨拶】

【報告】「谷津南小学校へのバス通学状況」

【報告】「平成28年度小規模特認校について」

事務局より、「谷津南小学校へのバス通学状況」報告

谷津南小学校へのバス通学において、4人の安全整理員の配置を行っている。バスに児童と共に乗る安全整理員が3名、降車場で児童を迎える安全整理員が1名。子どもたちは奏の杜三丁目バス停から乗車し、谷津干潟の操車場で降車する。本来のバス停は道路の反対側になるが、校舎時の安全のためそちらに降車することとした。降車後、学校まで安全指導員は子どもたちの後ろについて歩いていく。（バスの運行経路図、奏の杜三丁目バス停の乗車時、バス車内、谷津干潟バス停の降車時、谷津干潟バス停から谷津小学校へ歩く児童の様子を画像にて説明。）

下校時には、谷津南小学校バス停から奏の杜フォルテバス停までの乗車となる。バスが来るまでは、谷津南小学校の敷地内に子どもたちを留まらせ、バスが来たら子どもたちを外に出すという方法をとって安全を確保している。平成27年10月19日現在では、谷津南小学校通学バス発券数は10枚、通学児童数は9名である。今後も随時確認していく。

質疑応答

（宮内委員） 登校時と下校時に安全整理員が同行していることは理解した。途中で具合が悪くなった児童がいる場合については、安全整理員はいるのか。

（三角学校教育部主幹）

安全整理員が同行する時間は、登校時6：30から8：30まで、下校時14：15～17：15までを基本としております。また、放課後児童会から下校する児童のために、安全整理員1名が19：00まで同行します。この時間以外の安全整理員のバスの乗車はありません。登校後、具合が悪くなって早退する児童については、基本的に保護者が迎えに来ることになっております。また、保護者が

迎えに来られない場合は、先生が自宅まで付き添うこともあると聞いています。

(宮内委員) 災害などの緊急時には、児童が個々に歩いて帰ることになるのか。そうすると安全面でどうなのか、検討してほしい。

(三角学校教育部主幹) 緊急時には、学校において保護者に児童を引き渡すことになっております。児童が個々に帰るということはないと考えております。

(友常委員) 先ほどの説明で、通学バスの発券数が10枚、バス利用通学児童数が9名となっており、数が合わないのは何か理由があるのか。

(三角学校教育部主幹) 転入により、来週(10月26日)から登校する児童に配布した数も含まれております。その児童1名の差となります。

(田中委員) 現段階で、予定通りの人数が学校に来ているのか。

(三角学校教育部主幹) 本年度の児童数はアンケート等により、約70名と見込んでいますが、まだ半分程度の入居状況と聞いております。谷津うじ南小への問い合わせ等で、3学期からの転入も多いと聞いておりますので、その頃から増加するとみています。

(田中委員) 869戸のマンションからの転入が70名との見込みなのか。

(三角学校教育部主幹) 本年度の転入については、そのように捉えております。

(田中委員) レジデンスの奥にもマンションができています。その児童数の増加は最大でどれくらい見込んでいるのか。

(三角学校教育部主幹) 最大480人程度を見込んでいる。そうなると、バスなどの増便や、バス乗り場について等の検討をしていく必要が出てくると考えています。

(田中委員) 児童数のピーク時は何年になるのか。

(三角学校教育部主幹) 平成36年と考えています。ただし、入居のずれなどもあり得るので、今後も推計について注視してまいります。

(佐賀委員) 向山小学校を希望する家庭はいるのか。

(天田学校教育課長)

今のところ、数名いますが、大きな数ではありません。

(村田会長) それでは次に、平成28年度小規模特認校について報告を事務局からお願いします。

事務局より、「平成28年度小規模特認校について」報告

小規模特認校制については、平成15年度通学区域審議会で審議され、『学校規模が12学級以下の小学校は、「小規模特認校」として市内全域から選択できる学校とする。』と平成15年9月24日付けで通学区域審議会の答申を受けて決定した。その決定を受け、平成16年4月より向山小学校と秋津小学校を小規模特認校とした。

平成27年度現在の市内小学校学級数の確認。現在特認校の向山小学校は12学級、秋津小学校は11学級である。ボーダー付近に注目すると、袖ヶ浦西小学校については11学級、谷津南小学校13学級、香澄小学校14学級となっている。このうち、谷津南小学校については、先程の報告通り、奏の杜からのバス通学が始まり、人数の増加が見込まれるため、現状維持とし、香澄小学校については、現状のままとし、人数について今後注視していく。

そして、袖ヶ浦西小学校においては、既に12学級を下回っているため早急な対応が必要である。そこで、平成28年度4月より向山小学校と秋津小学校、そして袖ヶ浦西小学校の3校を前述の決定事項に基づき、小規模特認校とする。

最後に、今後のことも含めて確認。

1 小規模特認校の決定・施行の手続きについては、平成15年に決定された条件に基づいて教育委員会が行う。

2 学級数については、特別支援学級は含むが、特別支援教室は除く。

このことについての説明。特別支援学級については原則的に支援学級に学籍を置き、実際にその学級で生活している。当然教室には複数名の児童が生活している。特別支援教室については、他校や自校の普通学級に学籍を置く児童が教室に通ってくるわけで、実際の生活は特別支援教室ではなく、学籍を置く普通学級にある。だから、教室に少人数の児童が入れ替わりやってくる状況である。したがって、教室数と日々の生活から考えて、前述の通りとする。

3 来年度以降も、小規模特認校について毎年の通学区域審議会を確認、報告をする。

近年、習志野市も人口の増減が地域によって激しく変化している状況があり、それは今後もしばらく続くことが予想される。先を見通して、毎年状況を確認し、小規模特認校について審議していきたいと考えている。

質疑応答

(宮内委員)

現在、向山小・秋津小に学区外から来ている人数はどれくらいいるのか。

(天田学校教育課長)

向山小は21人、秋津小は13人となっております。

(村田会長)

他に御意見、御質問等ございますか。

それでは、本日の審議会では報告のみとなっております。事務局は、本日審議委員から出た質問とその応答についてまとめ、後日、議事録として報告をお願いします。

【閉会】

主管課：教育委員会 学校教育部 学校教育課